

日照時間の短い北欧では、夏は特別な季節である。フィンランドでは白夜となる夏至の祭で、コッコという巨大なかがり火が焚かれ、名誉ある点火の役は、その年に結婚した新婚カップルから選ばれる。燃え盛る炎を見つめるフィンランド人の瞳には、火を神聖視する太古の魂が宿っているようだ。

消防力の志

地震、雷、火事、親父。
それほど火事は、
江戸の日常茶飯事だったようです。

火災発生時に不可欠な「消防水利」は、
安心のための大きなインフラです。
阪神淡路大震災をきっかけに、
「非日常の火事」が意識され始めましたが、
消火栓、防火水槽、自然河川など
どれをとっても、
私たちが消火に使える身近な水は、
意外と少ないことがわかります。

現代に生きる私たちの「安全」と「安心」は、
消防力というセーフティネットに
支えられています。
消火と救命の技術
人とのつながり
人を助ける強い志。

消防力におけるこの3つの要素は、
何も消防職員だけのものではありません。

自分たちが、自らの暮らしを守るには、
志を持って「身近な消防力」を磨き、
「身近に汲める尽きない水」を備えることが
求められているのではないのでしょうか。

水の文化 20号 2005年8月

特集「消防力の志」

阪神淡路大震災から10年
21世紀の都市消防を考える 室崎益輝 4

独立行政法人消防研究所の役目
火を消す水も使い方したい 佐宗祐子 8

生き残りをかけて防災センスを磨くには 重川希志依 12
小村隆史

兵庫県川西市消防署員・消防団員・女性消防団員
ヘッドタウンを守る三つの消防物語 18

東京丸の内サラリーマン消防団
超不燃都市の消防水利 24

消防車メーカーが語る消火の現場 浅田栄治 30

安全は達成されると壊れ始める 村上陽一郎 34

みずだより 江戸町火消しの心意気 神田紅 38
文化をつくる 消防 40

水の文化実習実践取材
東京都 神田川ワークショップ
ハザードマップをつくろう 42

水の文化書誌 火と水と 古賀邦雄 46

里川研究掲示板 48

第11回水にかかわる生活意識調査から 消防と水 49

インフォメーション 50